

1 発表者氏名

影山淳子 鈴木志枝

2 学校名

栃木県立足利特別支援学校

3 発表テーマ

病院に入院する重度重複障害児と地域の中学生との交流学習

4 学校概要

本校は、「保健医療・福祉施設あしかがの森足利病院」に隣接し、病院に入院または、通院をしている児童生徒が、医療を受けながら教育を受けることができる特別支援学校である。病院の重症心身障害児・者病棟に入院している児童生徒を対象として院内学級を置いている。院内学級では、教員が病院に出向き、児童生徒とともに学校に登校して、または、ベットサイドで授業を行っている。今年度、院内学級には、小学生9名、中学生7名の計16名が在籍しているが、うち8名は人工呼吸器を使用している医療的にも最重度の子供たちである。

5 発表概要

本校院内学級は、学校間交流として地域の足利市立毛野中学校の第1学年全生徒と交流学習を行っている。一クラス一回1時間程度、本校で院内学級の児童生徒と活動するという内容をいくつかの中学生のグループに本校児童生徒が入る形で実施している。これまで続けてきた活動に加え、教員のかかわり方、事前指導として本校教員が中学校へ出向いてのレクチャー、中学生の理解状況把握のためのアンケートなど工夫・改善しながら、それぞれの取組を各回ごとに振り返り、その都度、評価・検証しながら実践を行ってきた。

6 成果と課題

生活拠点が病棟である本校院内学級児童生徒にとって、交流学習は、同世代の子供たちと触れ合うまたとない貴重な機会である。無表情であったり、ただ驚くだけだったりした児童生徒が何年かの継続の中で、中学生の語りかけや笑い声に笑顔を見せるようになった事例もある。数回の交流活動の中では変容を見るのは難しいが、社会経験を広げ新たな人間関係を築くよい機会であるので、一回一回を大切に継続的に取り組みながら児童生徒の成長を期待したい。また、中学生にとってもよい機会となっているので、教員が交流学習の中で障害のある児童生徒への理解をいかに的確に手助けしていくかということも今後も機会を捉え相手校の先生方と協力しながら考えていきたい。